

朔の日プロジェクト2022

京都で出会う人と人

～京都から東北とつながるプロジェクト～

2022年3月6日(日)、3月11日(金)～21日(月祝) 3/14(月)は休み

アートステージ 567

主催 朔の日プロジェクト実行委員会



京都市「Arts Aid KYOTO」補助事業

三陸沿岸の郷土芸能

～踊る・歌うが心を支え続けた東日本大震災の後～

講師 阿部 武司(東北文化財映像研究所)

3月12日(土)、13日(日)

開演 午後2時 開場 午後1時30分(休憩有り、約2時間)

参加費：1,500円(義援金を含みます) *要予約、定員20名



東北地方に伝わる無形民俗文化財を何十年にもわたり記録している阿部武司氏をお招きし、震災後に人々の心の支えとなった郷土芸能の営み、そして現在の状況について、映像を交えお話を伺います。

東日本大震災の後とても早い段階で、地域の祭や芸能は営みを再開し、人々の心を支え、復興への力となりました。震災後九年目に新型コロナウイルス感染症が広がり、元気を取り戻して活動していた郷土芸能も自粛の波で活躍できなくなりました。しかし、民俗芸能である郷土芸能の多くは、悪魔退散や疫病退散を願って昔から行われてきたこともあり、内陸の剣舞や鹿踊は疫病退散を願って寺社に奉納し始めました。一方沿岸地域は、東日本大震災で見せたような活発な活動は控えられ、すぐには立ち上がることが出来ませんでした....(阿部)

ご自身も岩手県内陸部に住む当事者であるとともに、沿岸の被災地に寄り添ってきた記録者としての視点から伝えて頂きます。

講演会の後は参加者との座談会。阿部さんも「それが大事だよ」と京都での出会いを楽しみにされています。京都から東北へ、足を運ぶことの叶わない今、気になっていること、思うことなどを話し合える場になればと思います。

●プロフィール 阿部 武司

1945年栃木県生まれ、東京都育ち。1976年、岩手県移住。

1987年に映像制作会社アサヒプロダクツを設立。

現在は東北文化財映像研究所所長として活動。

● Japanese folk performing arts 東北文映研ライブラリー映像館

https://www.youtube.com/channel/UCq5SSJ1N_R5KPXXyl-9J0xw



アートステージ 567

京都市中京区夷川通烏丸西入ル巴町92「コロナ堂」

HP : <https://artstage567.com/>

Email : galler@artstage567.com

ご予約：朔の日プロジェクト実行委員会

アートステージ 567 TEL/FAX : 075-256-3759

メール sakunoakari.3.11@gmail.com

● 新型コロナウイルス感染症対策により、定員を限定させていただきます。

「講演会」、「トークイベント」、「祈りと音楽」は、ご予約をお願いします。

参加費は義援金としてお預かりします。



アクセス

地下鉄烏丸線丸太町駅⑥番出口から徒歩2分
烏丸・夷川交差点を西へ40m南側

朔の日プロジェクト 京都から東北へ

ここ数年来、3・11が近づくころ、「鎮魂と被災地復興を祈念して」との思いを込めて、祈りと音楽の会を映像上映会と共に開いてきました。映像は、震災後、三陸沿岸の被災地において人々の心の支えとなった郷土芸能復活の軌跡を記録し編集したもの。毎年、東北文化財映像研究所の阿倍武司さんが届けて下さいます。会場となるアートステージ567のオーナーは東北にルーツを持ち、震災後、花巻にある遠縁のお寺を通じて物資を送り、現場へ趣き、沿岸地域の復興グッズを京都で販売するといった活動を続けています。

今回、初めて岩手より阿部さんをお招きし、このお二方の話を聞くことを軸とした、京都と東北がつながる十二日間の間が立ちあがります。

コロナ禍で復興は思うように進まず、盛り上がった民俗芸能も継承が厳しい現状にあります。世界中の人が、この厄災禍をなんとか生きていこうとしている。この三月に、あらためて東日本大震災を思い出し、お話を聞いて語り合うという営みの中、新たな気持ちでこの先に向かってできることは何か、考えていく力になればと思います。

そして、この十一年の時をねぎらい、未来へ招福を。佳き世の中なることを願って、絵と音楽をお届けします。

プレイベント

Pre Event / Talk Event

トークイベント

「東北とつながる、縁と縁、人と人」

お話し 本田晃三、本田佳子(アートステージ主宰)

3月6日(日) 開演午後2時 開場午後1時30分(休憩有り)

参加費：1,000円 (義援金を含みます) *要予約、定員10名

アートステージを主宰する本田夫妻から、2011年3月より継続されてきた、東日本大震災の支援活動を伺います。遠い親戚の岩手県内陸部の寺へ、各世代の下着靴下等を救援物資として京都から送り、そして住職が沿岸部被災地に届けて回った。その後、京都から岩手の被災地を視察、供養に巡った旅の話など。後半は、参加者とのトークセッションを予定しています。



オープニングイベント

Opening Event / Pray and Music

祈りと音楽

「たむけ 三叉楽 sansaraku」

～東日本大震災で亡くなられた方々の鎮魂と被災地復興を祈念して～

3月11日(金) 開演午後2時30分 開場午後2時(休憩有り、終演午後4時頃)

参加費：1,500円 (義援金を含みます) *要予約、定員18名

司会：吉田幸代 ゲスト：篠笛演奏 森美和子

東北に想い馳せ創作した曲や東北民謡などを、笛が奏でます。

南部牛追唄、春隣 ハルトナリ、南部伊積唄 ほか



展示

展覧会

映像上映

3月15日(火)～21日(月祝)
午前11時～午後6時 入場無料

松谷陽子展『寿山福海』

水墨画による作品展

東日本大震災をはじめ、災害に遭われた方や、コロナ禍の人々の祈りや前進への願いを込めて「寿山福海」と題し、古くから親しまれている招福除災のモチーフを中心とした作品を展示します。

●プロフィール 松谷 陽子 造形作家、水墨画家

1994年京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。立体造形、インスタレーションを勉強する。また、在学中より同大学講師の書家・水墨画家の山本六郎氏の助手を務め水墨画を始める。大学時代に培った現代美術的な感覚を活かしつつ、水墨を活かした作品作りに取り組んでいる。京阪神を中心に個展やグループ展にて創作活動を続け、水墨画教室やワークショップなども行っている。



「東日本大震災後の三陸沿岸の民俗芸能」

映像上映と資料展示

震災後、郷土芸能は被災地の地域復興に大きな役割を果たしました。犠牲者の慰霊追悼、そして地域の再生・復興を祈り、人々を励ます...生活の立て直しもままならない状況の中で営まれ、地域の人々を纏める力になりました。

●映像上映 2011年から最近までの営み取材した記録映像

●資料展示 いわて三陸沿岸の民俗芸能分布、民俗芸能の資料や写真など

映像制作：東北文化財映像研究所

映像作品は自由にご視聴出来ます。

アートステージ567では
東北支援グッズを紹介しています

アートステージ567は、築100年近くになる京町家。元老舗米穀店を伝統工法で再生した交流スペースです。展覧会、コンサート、ワークショップなど様々な催しを開催しています。一階の東北支援コーナーでは、さきおりの布で作ったポーチ、手刺繍の布巾や、オリジナル手ぬぐいなどのグッズを販売しています。

- ・ 田野畑村(岩手県) ハックの家より
花咲き織り(裂き織り)のポーチやベンケース他
- ・ 大槌町(岩手県) おおつちおばちゃんクラブより
和晒に手刺繍をした布きん
- ・ 『Shake Hand』の和晒と注染の手ぬぐい
SHAKE HAND=東北の手仕事と日本の染色技術とデザインをつなぎ、被災地復興に売り上げの一部を寄付する活動をしているADU(アンテナデザインユニット・京都市)のプロジェクト

